

赤平市の子供たちの学力・生活習慣の向上に向けて

— 平成 28 年度全国学力・学習状況調査の結果報告 —

平成 28 年 1 1 月
赤平市教育委員会

本年 4 月、小学校 6 年生及び中学校 3 年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」の結果の概要をお知らせします。

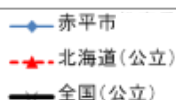
赤平市教育委員会では、この調査から、市内の児童・生徒の生活面・学習面の傾向をとらえ、教育施策の一層の充実を図ります。保護者の皆様には、ご家庭での生活習慣及び家庭学習の充実に向け、学校と連携したご協力をお願いいたします。

なお、この調査は学力の一部をはかるものであることをご承知おき願います。

1 学力の状況

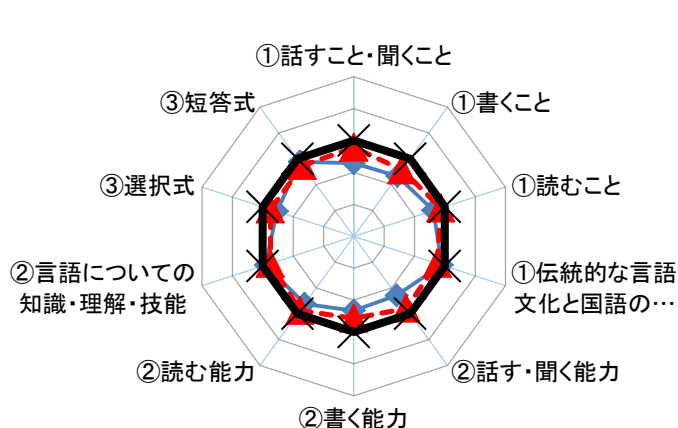
A 問題：主として「知識」に関する問題（身につけておくべき基礎的な知識や技能）

B 問題：主として「活用」に関する問題（知識や技能を実生活の場に活用する能力）

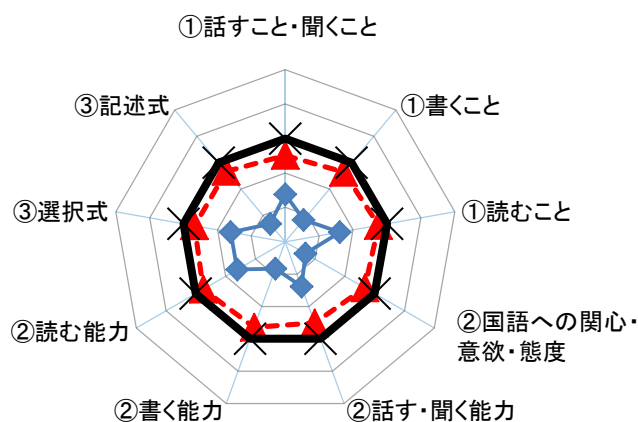


次のグラフは、全国の平均正答率を 100 とした時の、北海道と赤平市の正答率をレーダーチャートで表したものです。

小学校



国語 A



国語 B

<国語 A> どの項目も、全国の平均正答率をやや下回っています。

領域別の状況について

○『伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項』については、全国との差が 1 ポイント程度であり、ある程度定着していると考えられます。

▲『話すこと・聞くこと』『書くこと』『読むこと』については、全国と比べて 5 ポイント程度低く、特に、「書き手の表現の仕方をよりよくするために助言する」は、全国を 10 ポイント程度下回っています。

問題形式別の状況について

○短答式は、全国とほぼ同様となっています。

▲選択式は全国と比べて、5 ポイント程度下回っています。

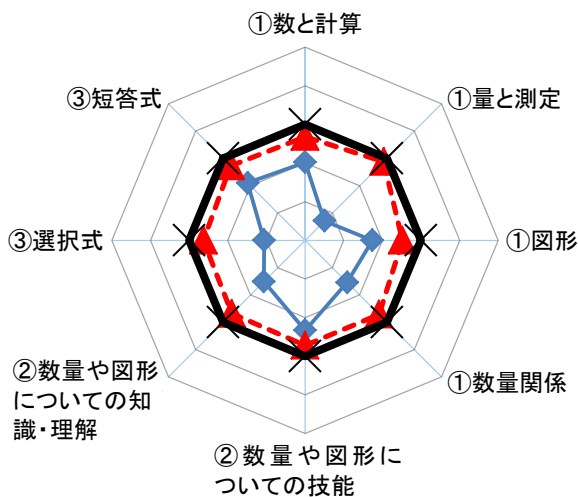
<国語B> どの項目も、全国の平均正答率を大きく下回っています。

領域別の状況について

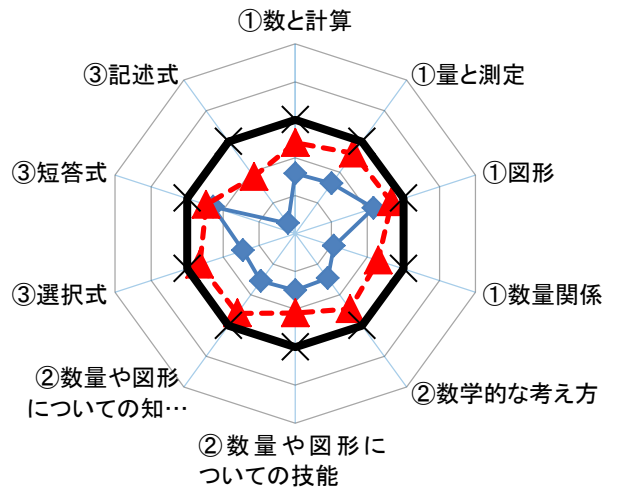
▲どの領域も、全国に比べて 10 ポイントから 20 ポイント程度低く、特に、「目的や意図に応じて表を基に自分の考えを書く」は、全国を 20 ポイント程度下回っています。

問題形式別の状況について

▲記述式は、全国と比べて 20 ポイント以上低く、特に、無回答率は、全国と比べて 10 ポイント以上高く、記述式の問題に取り組もうとする意欲に課題が見られます。



算数 A



算数 B

<算数A> どの項目も、全国の平均正答率を下回っています。大きく下回っている項目もあります。

領域別の状況について

○『数と計算』の「繰り下がりのある減法の計算」は全国よりも 5 ポイント、「不等号」は全国よりも 2 ポイント高くなっています。

▲一方、『数と計算』の中の「除法における計算の確かめの方法」は、全国を 20 ポイント程度下回っています。

▲『量と測定』では、「三角形の底辺と高さの関係」が全国よりも 20 ポイント程度下回っています。

問題形式別の状況について

▲選択式は、全国と比べて 20 ポイント程度下回っています。

<算数B> どの項目も、全国の平均正答率を下回っています。大きく下回っている項目もあります。

領域別の状況について

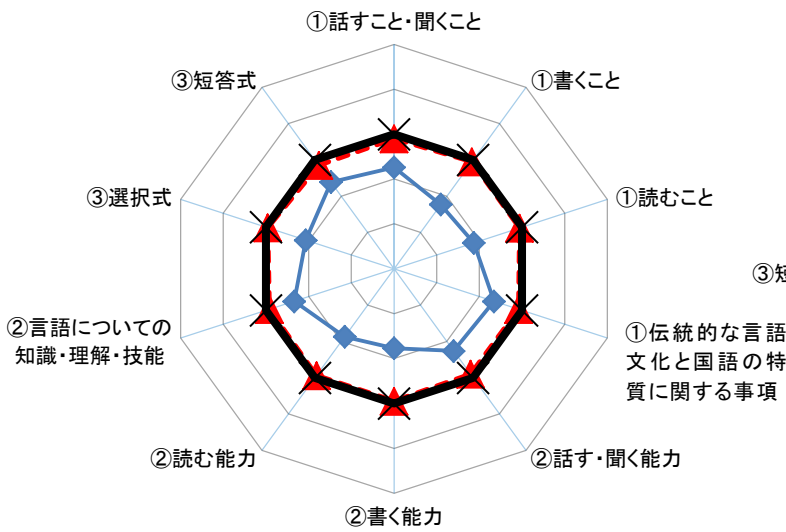
○『図形』では、「図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を判断する」が、全国よりも 5 ポイント以上高くなっています。

▲『数量関係』では、「単位量当たりの大きさを求めるために他に必要な情報を判断して特定する」や「示されたことからについて、二つの表を基に読み取ることができない事項を特定する」が、全国を 15 ポイント程度下回っています。

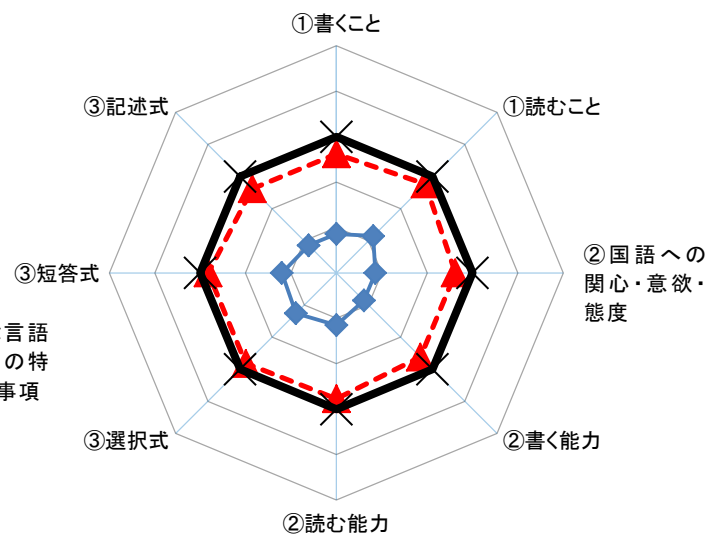
問題形式別の状況について

▲記述式は、全国と比べて 20 ポイント以上低く、特に、無回答率は、全国と比べて 20 ポイント以上高く、記述式の問題に取り組もうとする意欲に課題が見られます。

中学校



国語 A



国語 B

<国語 A> どの項目も、全国の平均正答率を下回っています。

領域別の状況について

○漢字の読みについては、全国とほぼ同様になっています。

▲『書くこと』『読むこと』については、全国と比べて10ポイント程度低く、特に、「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」は、いずれも全国を15ポイント程度下回っています。

問題形式別の状況について

▲短答式は全国と比べて5ポイント程度下回っています。

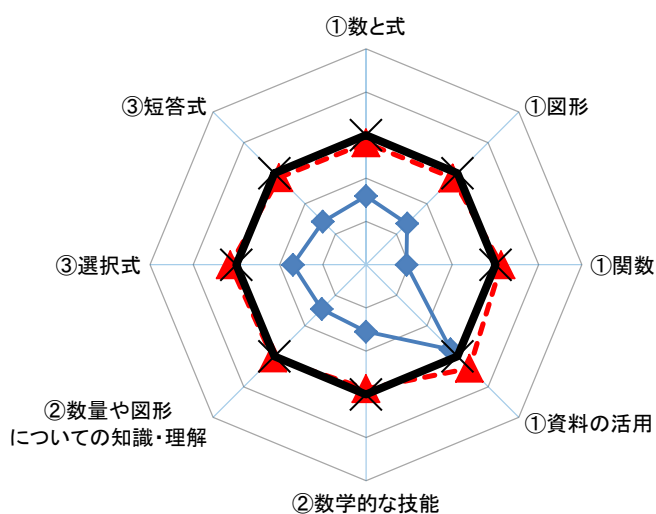
<国語 B> どの項目も、全国の平均正答率を大きく下回っています。

領域別の状況について

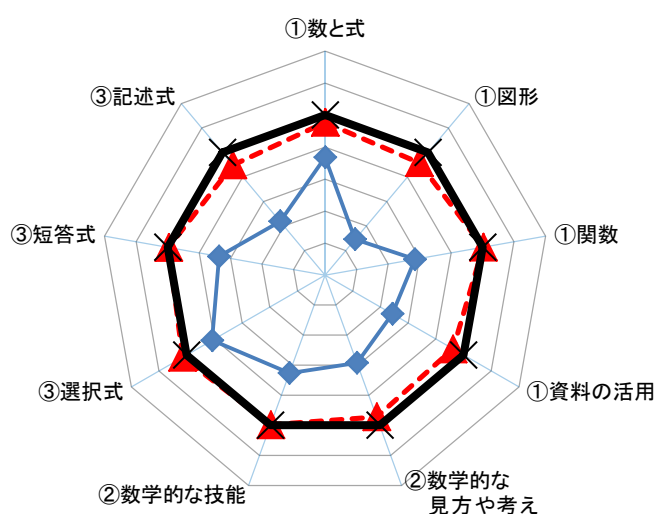
▲『書くこと』『読むこと』が全国を20ポイント程度下回っており、特に、「課題を決めそれに応じた情報収集の方法を考える」「目的に応じて文章を要約する」が全国を15~20ポイント下回っています。

問題形式別の状況について

▲記述式は、全国と比べて20ポイント以上低く、特に、無回答率は全国と比べて10ポイント以上高く、記述式の問題に取り組もうとする意欲に課題が見られます。



数学 A



数学 B

< 数学 A > どの項目も、全国の平均正答率を下回っています。

領域別の状況について

- 『資料の活用』については、全国との差が 2 ポイント程度であり、ある程度定着していると考えられます。
- 『図形』については、「作図の方法」が全国よりも 7 ポイント、「立方体の見取り図」が全国よりも 2 ポイント高くなっています。
- ▲一方、同じ『図形』の中で「多角形の外角の和」「ひし形の対角線の性質」については、全国を 20 ポイント程度下回っています。
- ▲『関数』については、全国と比べて 20 ポイント程度低く、特に、「一次関数の関係を式に表すこと」は、全国を 20 ポイント以上下回っています。

問題形式別の状況について

- ▲選択式、短答式とも、全国と比べて 15 ポイント程度下回っています。

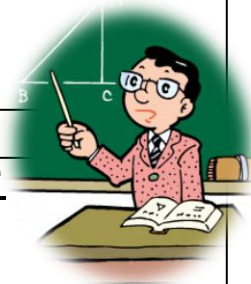
< 数学 B > どの項目も、全国の平均正答率を下回っています。大きく下回っている項目もあります。

領域別の状況について

- ▲『図形』については、全国と比べて 30 ポイント以上下回っており、特に、「図形の合同について筋道を立てて証明する」は、全国を 30 ポイント程度下回っています。
- ▲『資料の活用』については、全国と比べて 25 ポイント程度下回っており、特に、「与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現する」は、全国を 20 ポイント程度下回っています。

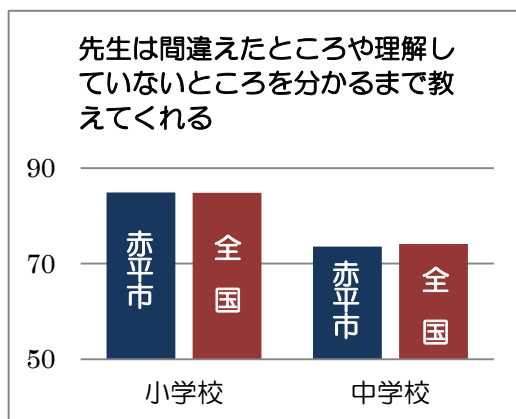
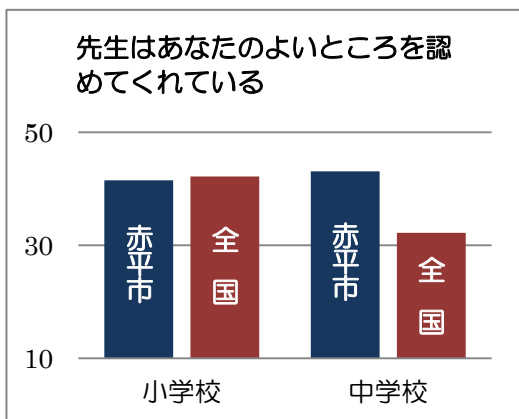
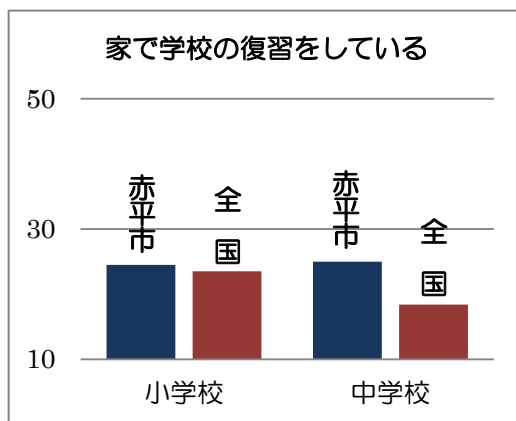
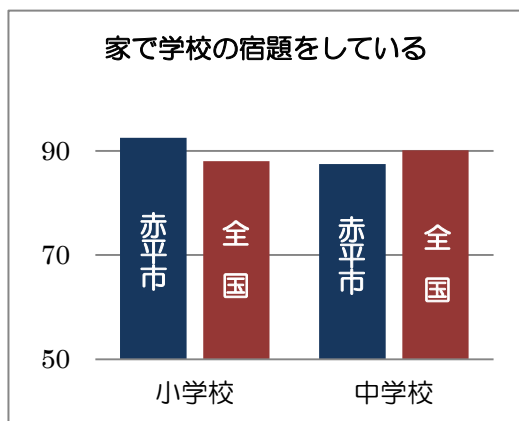
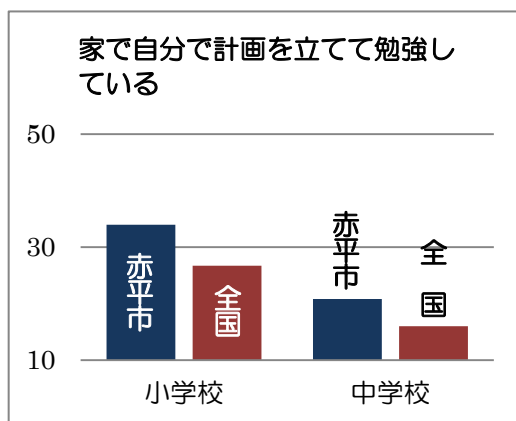
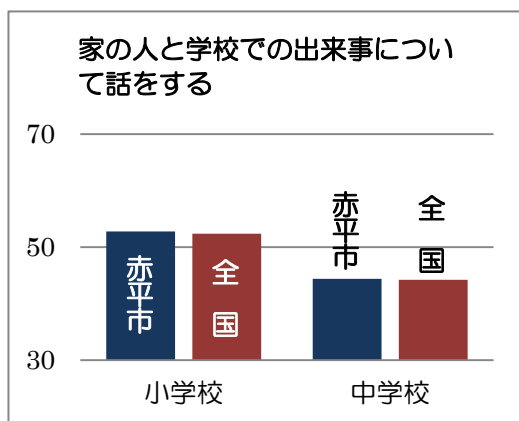
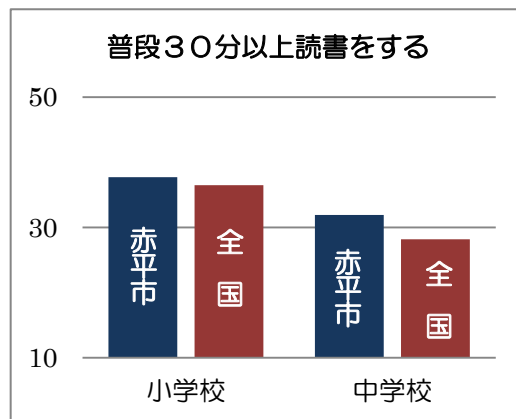
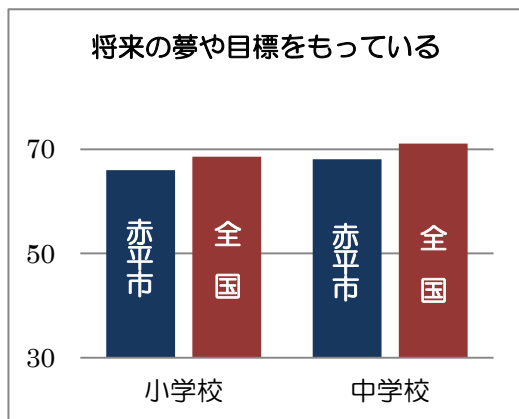
問題形式別の状況について

- ▲記述式が全国と比べて 25 ポイント以上低く、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」ことなどに課題が見られます。

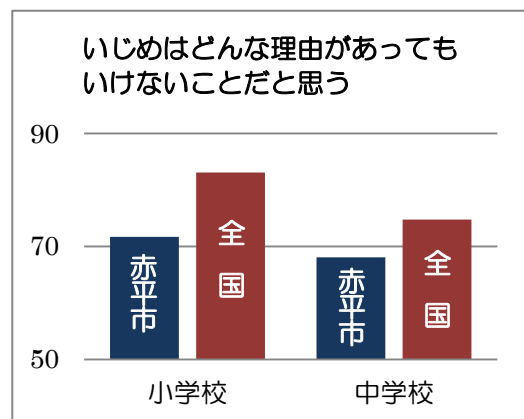
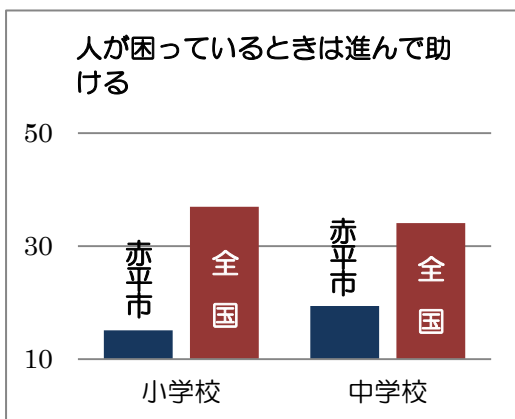
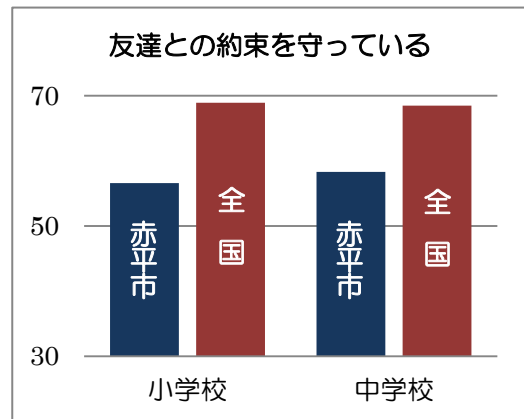
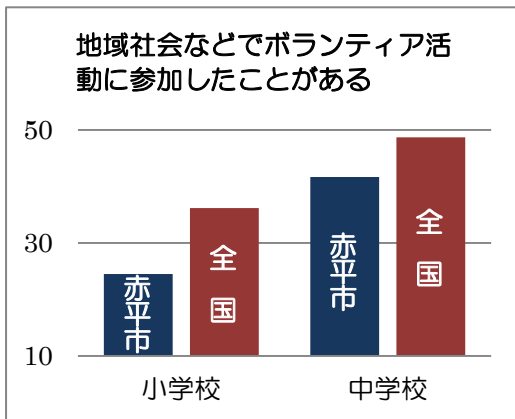
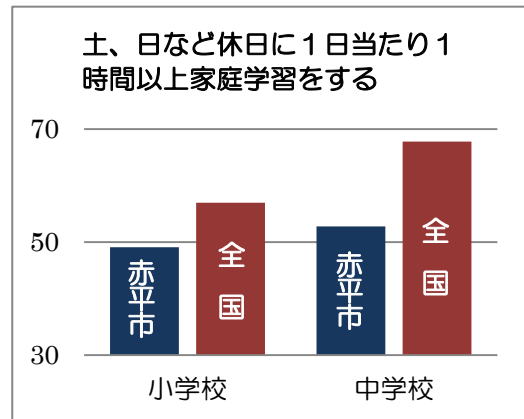
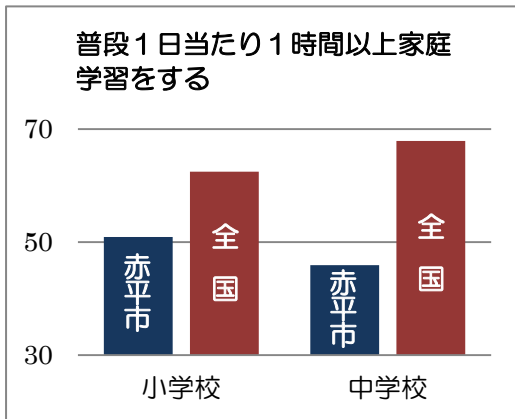
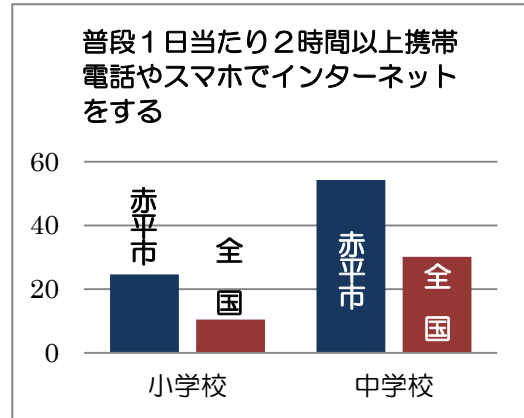
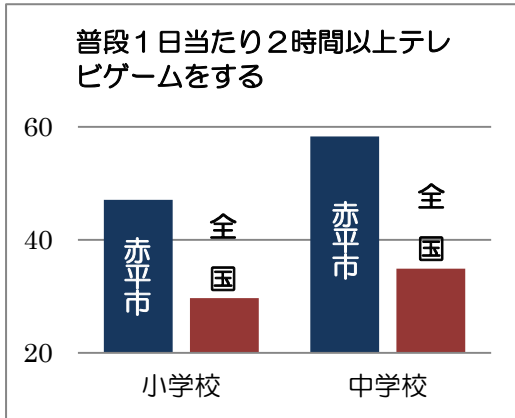


2 児童・生徒質問紙調査結果（抄）

（1）【全国平均とほぼ同様の状況にある項目】



(2) 【全国平均と比較して改善が必要と判断される項目】



(3) 児童・生徒質問紙調査結果から

- 将来の夢や目標をもつことについては、小学生も中学生も全国とほぼ同様の傾向にあります。
- 読書習慣については、小学生も中学生も全国とほぼ同様の傾向にあります。
- 家の人と学校での出来事を話すことについては、小学生も中学生も全国とほぼ同様の傾向にあります。
- 家で、自分で計画を立てて勉強していることについては、小学生が中学生に比べて高い割合にあり、全国平均を上回っています。
- 学校の宿題については、当市の小学生は9割以上が「している」と回答しており、中学生もほぼ9割の子どもが「している」と回答するなど、よく取り組んでいることがわかります。
- 復習については、取り組んでいる割合はやや低いものの、当市の小学生も中学生も全国平均を上回っています。
- 先生は自分のよいところを認めてくれていることについては、当市の小学生も中学生もほぼ同じ割合であり、特に、中学生は全国平均よりも高い傾向にあります。
- 先生は間違えたところや理解していないところを分かるまで教えてくれることについては、小学生も中学生も全国とほぼ同様の傾向にあります。
- ▲ 普段（月～金曜日）、1日当たり2時間以上テレビゲームをする割合は、小学生が約20ポイント、中学生は20ポイント以上全国平均を上回っています。
- ▲ 普段（月～金曜日）、1日当たり2時間以上インターネットをする割合は、小学生が約10ポイント、中学生は約20ポイント全国平均を上回っています。
- ▲ 普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上家庭学習をする割合は、小学生が約10ポイント、中学生は約20ポイント全国平均を下回っています。
- ▲ 土、日など休日に、1日当たり1時間以上家庭学習をする割合は、小学生が約10ポイント、中学生は約15ポイント全国平均を下回っています。
- ▲ 地域などでのボランティア活動については、小学生も中学生も約10ポイント全国平均を下回っています。
- ▲ 友達との約束を守ることについては、小学生も中学生も約10ポイント全国平均を下回っています。
- ▲ 人が困っているときは進んで助けることについては、小学生が約20ポイント、中学生は約15ポイント全国平均を下回っています。
- ▲ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うことについては、小学生が約10ポイント、中学生は約5ポイント全国平均を下回っています。

(4) 家庭・地域へのお願い

当市の児童生徒は、宿題など家庭学習に取り組んではいるものの、**勉強する時間が不足**しています。勉強する時間が、**テレビゲームやインターネットに奪われて**います。学力向上のためには、**家庭学習習慣を定着**すること、**家庭生活のリズムを確立**することが必要です。子どもたちの**将来の夢や目標を実現**するため、学校から示されている**家庭学習の時間を確保**するよう、お願いします。



また、地域の活動への参加を促すこと、約束を守ること、困っている人を見たら手を差し伸べること、いじめは絶対に許されないことなどは、**大人が日常生活や社会生活の中で身をもって子どもたちに教えていくこと**です。赤平の将来を背負っていく子どもたちに、人間として大切にするべき心のもち方や行動規範を身に付けさせるよう、それぞれの立場でお力添えをお願いします。

3 今後の取組

(1) 目標

全国学力・学習状況調査における教科に関する全ての調査において、全国の平均正答率を目指す。

(2) 重点

<小学校>

- 国語では、「国語への関心・意欲・態度」や「書く能力」を高めるため、「目的や意図に応じて、グラフや表を基に、自分の考えを書く」などの学習活動を充実させます。
- 算数では、「量と測定」における基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、「数学的な考え方」に関する能力を高めるため、「示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を記述する」などの学習活動を充実させます。

<中学校>

- 国語では、「書く能力」「読む能力」を高めるため、「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」「課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える」などの学習活動を充実させます。
- 数学では、各領域における基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、「数学的な見方や考え方」に関する能力を高めるため、「与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現する」「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」「筋道を立てて考え、証明する」などの学習活動を充実させます。

<家庭>

- 生活リズムを整え、毎日決まった時間に机に向かって宿題や予習、復習をする習慣を身に付けさせます。
- 「ノーゲームデー」など、ゲームやインターネットをしない曜日を設定するなど、家庭学習にきちんと取り組ませるための約束を決めます。



(3) 教育委員会の施策

- ①赤平市基底教育課程を見直し、学校の指導計画や指導方法を改善させます。
- ②ほっかいどう「チャレンジテスト」などの学力向上推進事業を全ての小・中学校で行います。
- ③全国学力・学習状況調査における赤平市全体の結果と考察を公表します。
- ④巡回指導教員や少人数指導のための人的措置等を充実させます。
- ⑤夏休み・冬休み・放課後などの補充的な学習サポートの機会を充実するよう指導します。
- ⑥全ての小・中学校で校内研修を充実させ、教師の指導力の向上を図ります。
- ⑦道教委の地域連携研修事業などを活用し、教師の研修の機会を増やします。

- ⑧全ての小・中学校で家庭学習の手引などを作り、家庭学習の啓発に努めるよう指導します。
- ⑨関係機関・団体と連携し、地域で子どもを育てる環境づくりを進めます。
- ⑩学習支援員、学校支援ボランティアなどの人的確保・配置に努めます。
- ⑪小・中学校におけるICT(情報通信技術)の整備・充実に努めます。
- ⑫小学校と中学校の連携を強め、9年間を見通した学びの連続性の確保に努めます。
- ⑬読書活動の充実に努めます。
- ⑭ALT(外国語指導助手)の派遣による英語教育や外国語活動の充実に努めます。

(4) 小・中学校の取組

上記の教育委員会の施策の中で、学校の取組を組織的・計画的に推進します。

- ・「ほっかいどう学力向上推進事業」を計画的に進めます。
- ・基礎・基本の定着を図る学習指導を充実します。
- ・教師の指導力を高める校内研修を充実します。
- ・補足的な学習サポートの機会を充実します。
- ・家庭学習の手引を作成するなど、家庭と連携して家庭学習の充実を図ります。

※各小・中学校の取組については、学校だよりなどでお知らせいたします。

赤平市の子どもたちの健やかな成長と

将来の夢や希望の実現のために

地域を挙げて学校へのご支援をお願いします。

